

プログラム説明書

団体名	NPO グリーンコンシューマー高松		
プログラム名	②地球温暖化防止につながる、森林(もり)の働きを知ろう・学ぼう！		
概要	地球温暖化の仕組みを学び、森林(もり)が二酸化炭素を吸収することで地球の温暖化防止に役立つことを知る		
ねらい	森林再生の過程を学び、整備した森林の土と裸地の土を比較実験、地球温暖化防止につながる森林の働きを知る		
対象者	小・中学生	人数	1クラス単位
実施場所	教室・多目的室等 体育館(多人数の場合)	実施時間	2校時 (40分～2回)
学校の準備物	パワーポイント投影の準備、 筆記用具(生徒)	実施団体の準備物	PP、パネル、教材(山の土 2種類、配布資料、ヒノキの輪切り:後に配布)
安全上の注意事項	実験時に混み合わないよう注意する。危険物は使用しない。		
雨天時の対応	室内での実施		
アピールポイント	森林の二酸化炭素吸収能力等の働きを学ぶ 森林の再生方法を知る 森林の2種類の土を比較し、保水力、浄化方法等、実験を通して学ぶ		

プログラムの進め方

【導入】

森林(もり)は、すごい働きをしています。これから皆さんに実験をしてもらい、私たちの暮らしに、どのように役に立っていることを調べてみましょう。

パワーポイントや実験を通して森林の働きに気づき学んでもらう。

【展開】

地球温暖化について説明する。

①樹木は、二酸化炭素を吸収し、森林が地球温暖化防止の働きをしているが、世界では森林が1年間に520万ha(日本の面積の14%)減少していることが問題となっていることを説明し、地球の温暖化防止に関心を持ってもらう。

②日本では、2015年国連が採択した持続可能な開発目標SDGs17の目標15(陸の豊かさを守ろう)。私たちは、森林を再生して持続可能な方法で利用しなければなりません。

③植林し、手入れし、森林を育てる過程で使う道具等を昔と現在を比較し説明する。

【体験】

①整備した森林の土と荒廃した森林の土の保水力、ろ過の状況等、ペットボトルを使って実験し、森林の働きを確認し、森林整備の必要性を認識してもらう。(グループに分かれて実験)

ヒノキ、スギ、マツ、コナラ等の小枝を見比べ樹々の特性を学ぶ。

②森林を整備する際、間伐して作ったヒノキのコースターを配付、年輪を数える体験を行い、木について、気付いたことをグループで話し合う。

【まとめ】

実験を通じて、森林が緑のダムと言われる保水力、水を浄化する様々な能力を有することを目で確かめ確認した。

私たちにとって、森林の様々な働きを知り、樹木を大切に、森林を整備し再生することが暮らしに役立っていることを知り、森林の重要性、地球環境への意識を高め気付いてもらう。